

IV. Afterword

This publication titled “Methods of farming sexually propagated corals and outplanting for coral reef rehabilitation; with useful references for coral reef rehabilitation through active restoration measure” has been made into a commemoration volume of the 25th celebration of the general incorporated foundation Establishment of Tropical Marine Ecological Research.

It consists of results of scientific research and technological achievement over many years at the above foundation's Akajima Marine Science Laboratory in Okinawa. Much of the knowledge is based on field work at Akajima Island, which could be achieved because of our long-term efforts to protect against typhoons and maintain the laboratory and various facilities such as aquaria, diving apparatus, and research vessels. Since founding the laboratory, we have cherished affiliations with the local people of Akajima and visiting researchers from Japan and other countries. Without their cooperation and assistance we would not be able to complete this research. We are convinced that the present volume will be quite useful for rehabilitation of coral reefs in the world. This work was completed with long-term financial support from Nippon Foundation to whom we express our hearty gratitude.

March, 2014

Saburo Hosaka, Chairperson of the Board of Directors, Establishment of Tropical Marine Ecological Research

あとがき

「有性生殖を利用したサンゴ種苗生産と植え付けによるさんご礁修復のための技術手法；付、積極的なさんご礁修復再生事業のために役立つ参考文献集」は一般財団法人 熱帯海洋生態研究振興財団の創立 25 周年事業として発行しました。本書は本財団の沖縄支所である阿嘉島臨海研究所における長年の研究の成果をまとめたもので、今後、さんご礁の修復やサンゴの研究にかかわる世界中の人々に役立つものと確信しています。

本書には現場で得られた多くの知見が積み重ねられており、実海域での昼夜にわたる調査研究がなければたり着けないものばかりです。私達は、快適に過ごせる研究所をめざし、研究機材をはじめ潜水機材や船舶などを充実させ、宿泊施設や食事に至るまで心を配り、毎年来る台風と闘い、地元との友好を大切にして、運営管理には大変苦勞しました。

阿嘉島臨海研究所は沖縄本島から船で 1 時間の距離があり、簡単に往復することは出来ません、荒天欠航が続くと、常駐研究員はまさに「かごの鳥」状態になります。島での楽しみは食事ですから、果物や肉類や菓子など、珍しい食品をしばしば送りました。研究所では専任のシェフが旬の食材を調理し、所員と一緒に食事を楽しみ、所内の掃除やペンキ塗りやガラス拭き、台風対策、草刈りなどを全員でこなしてきました。ダイビング仲間と一緒に海外各地のさんご礁の巡検にも行きました。冬の海では 5 mm のダイビングスーツを使って寒さをしのぎました。阿嘉島では初めての屋外温水シャワー場を整備し、時々発生する停電には発電機が威力を発揮しました。

研究所創立当時を振り返り、多くの国内外の研究者や理解者の協力なくして今日はなかったと思います。特に、日本財団からは研究と啓発活動に対して多大な助成を受けました、ここに大いなる謝辞を表明します。

世界有数の美しいさんご礁に囲まれた阿嘉島とその周辺海域は慶良間諸島国立公園に指定されました。これからも阿嘉島臨海研究所は、海洋生物の「ゆりかご」であるさんご礁、自然災害への防波堤としてのさんご礁、地域経済を支えるさんご礁の保全を通して、地域の人々への知識の普及啓蒙や慶良間の海から世界各地への情報発信に尽力していきたいと考えております。これからも皆様の温かいご指導ご鞭撻を賜れるよう精進して参ります。

平成 26 年 3 月

一般財団法人 熱帯海洋生態研究振興財団 理事長 保坂三郎